

ログイン

アカウントを忘れた場合



聖心女子大学
「聖心歳時記」

@SeishinDiary

ホーム



聖心女子大学「聖心歳時記」

作成者: goukaku@u-sacred-heart.ac.jp [?]

「いいね!」済み・9月11日・編集済み

シリーズ学生記者が行くー広尾Walking2016ー

「戦後の広尾商店街②」

広尾には何代にも亘って受け継がれているお店はいくつもありますが、今回は91年前に白金で創業し昭和初旬に広尾商店街の現在の場所で営業を始められた舂勝酒店（下記広尾散歩通りMAP B-2参照）のおばあちゃんに昭和20年代後半のお話を伺いました。

おばあちゃんは今でもお元気にお店番をされています。現在でもお味噌の量り売りを行っている舂勝酒店ですが、当時は10種類以上のお味噌やお酒、醤油、油なども樽から量り売りし、お客さんはお鍋を持ってきて買いに来たそうです。店先には立ち飲み用のテーブルがあり、仕事帰りにお酒を一杯ひっかけるのがサラリーマンの楽しみだったといいます。お店にはワインなど外国のお酒はほとんど無かったのだとか。その頃の冷蔵庫は上下に二つ扉があり、上には氷を入れて、その氷の冷気で下に入れたビール等の商品を冷やす仕様。今と違って、冬になるとビールはまったく売れなかった時代で、冬の冷蔵庫は倉庫代わりとしてご進物用の箱などが入っていたようです。

東京タワーが完成する前に祥雲寺山門前から現在の広尾駅方面を撮影した添付の写真(上)をご覧の通り、商店街には大売り出しののぼりが立ち、福引所には子供達も集まり、賑やかですが、道はまだ舗装されておらず歩道もありませんでした。そんな中、聖心女子大学の南門前の坂道は魚の鱗のような石畳で出来ていました。

雨が降るとその坂に沿って高台にある聖心女子大学方面から商店街に向かって雨水が流れ、当時、お店は道と同じ高さに床が作られていたため、舂勝酒店の店内にも雨水が入り、ちりとりでかき出すことも多かったそうです。また、みな下駄を履いていた時代ですが、店の前を歩く聖心生の中には、鮮やかな色の靴を履いて通学する学生もいて「その姿がとっても素敵で印象に残っています。」と語っていただきました。

街の形は少しずつ変わっていくものの、当時からずっと同じ場所で営業されている舂勝酒店のお話を伺い、広尾の歴史を感じることができました。

広尾散歩通りMAPはこちら。 http://www.u-sacred-heart.ac.jp/images2/map_surround.pdf

SRS(聖心 Radio Station)部員 竹腰友里子(1年)

